

2022年度 会社説明会

<主なQA>

Q. 23年度の業績予想から、持続的な利益水準をどう評価したらよいか。経常利益見通し4,250億円から、燃料費調整制度の期ずれ影響や送配電事業の一過性影響を差し引いた3,000億円台前半が、持続可能な利益水準か。

A. 昨年を振り返っても、燃料価格等市況の変動は極めて大きく、現時点で断定的に申し上げられない。持続的な利益水準を、常々、見極めなければならない。

Q. 持続的な利益水準が3,000億円台半ばであれば、十分配当に回す余力はあると考えるが、安定配当の方針のもと、50円/株からステップアップすることは可能か。もしくは、資金に余裕があれば、新しい投資へ回すとの考えか。

A. 持続的な利益水準を見極めたうえで、検討することになる。現時点で具体的な考えはない。

Q. 競争環境をどのように認識しているか。引続き、個別協議による販売単価の増加を期待できる環境が継続しているのか。あるいはJEPX価格も落ち着き、競争が激しくなるとの認識か。

A. 他社との相対的なポジションは、市況変化の影響も受ける。現時点で、たちまちに、不利な状況になるとは思っていない。

Q. 23年度業績予想の前提として、原子力利用率を70%程度としているが、運転計画ベースでは78.4%と公表している。原子力の稼動に関し、何がリスクだと認識しているか。

A. 具体的なリスクを積み上げて70%程度と想定したものではない。過去の実績では様々な事象により計画より低い利用率となっていることを踏まえ、70%程度としている。

Q. 23年度業績予想は中期経営計画の目標を上回っているが、指名委員会等設置会社となり監督がうまく機能している影響もあるのか。

A. 社外取締役からは、それぞれの視点で、忌憚ない意見、事業運営における気づきを与えて頂いている。執行側が、そうした意見、気づきを反映し、再び、取締役会で議論するという循環が生まれており、ガバナンスが良い方向に働いていると実感している。